

2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [東洋女子高等学校] 担当教諭名 [木内 美穂] (1年・2年有志 63名)

相手国・地域 [サウジアラビア]

海外学校名 [Al Hussan International School Al Khobar] 担当教諭名 [Saira Muhammad]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	幸せってなんだろう？	1
	総合的な学習の時間	museum start (作品鑑賞)	2
	総合・その他	アートマイルプロジェクト	24

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	コロナとの共生の中でより良く生きていくために
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	コロナとの共生の中で、人との関わりを大切にして楽しみながら生きていく。互いの文化や価値観を尊重し、助け合い、心にゆとりの持てる働き方や過ごし方を考えていこう。
 	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 生徒がサウジアラビアや SDGs に興味を持ち、積極的にサウジアラビアや SDGs のことを調べることができた。 英語を積極的に話したり、英文を書けるように挑戦したりするようになった。 自分の意見を発表する機会を増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加生徒が多いため、壁画に全員の思いを乗せることが難しかった。 コロナ禍で一つの場所で集会を実施することが難しかった。 通信ソフト (Zoom) を使用した交流が難しい時もあり、通信環境を整える必要性を感じた。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で制限されることも多かったが、これからの未来をサウジアラビアの生徒と共に考えることで明るい未来を想像し前向きな発言が増えた。 サウジアラビアの様々な文化を知ることによって視野を広げることができた。 日本に馴染みのない宗教に触れ、価値観を広げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> サウジアラビアと日本で文化は違うが、互いの良さを伝え合うことで、互いを尊重しあえば協調できることを改めて認識させられた。 文化的なジェンダー (特に女性) に対する考えの違いを実感し、日本のジェンダー教育を改めて考えるきっかけとなった。 宗教や年中行事の違いを知り、異文化コミュニケーションの難しさ、面白さを実感できた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月 7月	○自己紹介をしよう ・名前やサウジアラビアの生徒へ向けたメッセージ動画の作成	・どんな自己紹介をするとサウジアラビアの生徒に伝わるか真剣に考えていた。 ・スピーキングの練習を懸命に行っていた。	総合 放課後
共有 テーマ学習	10月	○サウジアラビアと交流 ・Zoom を用いて相手国について調べたことを紹介しあう ・英語で作成したスライドを見せ合う	・サウジアラビアの若者文化・経済・教育などについて調べまとめるのに苦労していたが、相手国への理解を深められるよう励んでいた。	総合 放課後
融合 メッセージ作成	11月	○壁画デザインを考える ・世界に伝えたいメッセージをグループごとに考え、リーダーを中心にまとめる	・「コロナとの共生の中でより良く生きていくために」というテーマだったが、ポジティブなメッセージを考える生徒が多かった。	総合 放課後
創造 壁画制作	12月	○壁画を完成させる ・グループごとに分かれて、各リーダーの指示のもと壁画の下絵と色塗りを行う	・「コロナとの共生の中でより良く生きていくために」というテーマを頭に入れたながら、心をこめて壁画制作にあたった。	総合 放課後
評価 振り返り 自己評価	1月 2月	○校内で壁画の発表 ○サウジアラビアへ送るメッセージカード作成 ○修了式(まとめと振り返り)	・相手校の生徒に喜んでもらえるように、長い英文を書いたり、ポップにデザインしたカードを書く生徒もいた。 ・完成した壁画の感想を述べあった。	総合 放課後

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	相手国について調べ、Zoom を用いて発表することにより、サウジアラビアの生徒には日本がどのように映っているのかを知り、日本について新たな視点を持つことができた。また、サウジアラビアの文化や習慣に対し理解を深め、互いの文化を尊重する気持ちが芽生えた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	5	COVID-19 の影響やこの困難な時代を乗り越えるためにはどのような課題があるのか、相手の文化や学校の様子を理解し、相違点を見つけたり考えたりすることで互いの文化への自分の理解や考えを深めることができた。また、自分たちの置かれている環境を当たり前と思わず疑問を持つこと、さまざまな価値観が存在することなどに気づいた。
主体的に考え行動する力	3	グループで学習することにより、各自が自分の役割を理解し、行動できていた。特にグループのリーダーたちは意見をまとめる力がついた。積極性には個人差があり、リーダーに頼ってしまう生徒もいた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	Zoom でのやりとりをすることでお互いの顔が見えて親しみを持つことができ、協働意欲が芽生えた。壁画制作においては、メッセージと描きたいモチーフを考え、デザインを決定し、壁画を描くところまで、相手校と分担して一つの作品を仕上げる喜びを感じることができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	サウジアラビアや COVID-19 について理解を深めることに多くの時間を費やした。その上でメッセージと壁画を作成したことによって、それぞれが自分の意見を持つことができた。英語や絵など自分の得意な分野を中心に、想いを十分に発信することができた。